

織物と観光のまち富士吉田を全国へ発信! ハタオリステーション開催!

- 山梨県絹人織織物工業組合
- 富士吉田織物協同組合

山梨県絹人織織物工業組合・富士吉田織物協同組合(渡辺教一理事長)は、4月16~17日の二日間にわたり「ヤマナシハタオリステーション」を開催した。



体験に熱中する子ども達

このイベントは富士吉田地域の桜が満開となり、新倉山浅間公園などに多くの観光客が訪れるこの時期を狙って開催され、郡内地区の伝統工芸品である織物を観光客と地域住民に知ってもらうための新企画の催しとなった。

イベントの会場は富士急行線「下吉田駅」構内の倉庫を使った。昭和30年~40年代、富士吉田市内には多くの機織り(ハタオリ)工場が存在し、当時、完成した商品を全国へ貨物列車で運んだ出発点、織物発信の原点であるため、開催地に選んだ。今回のイベントは、織物と観光を結びつけられないだろうかという思いから、2つの組合と富士急行(株)が連携して実現した。

メインイベントは、地元で織られた生地による織物商品(傘、ストール、ネクタイ)の紹介及び販売、ハタオリの現場を体感できる展示や体験コーナーなど、ハタオリの魅力を感じることができる空間を来場者に提供した。また、地元関係団体による体験イベント、フリーマーケット、獅子舞の演舞、大道芸、ブルートレイン車輛による車掌体験、更には、4月23日から運航開始となる新型特急「富士山ビュー特急」の



店頭に並べられた織物商品

展示も実施された。

17日に雨に見舞われたものの開催された2日間は、多くの来場者で賑わっていた。

渡辺教一理事長は「より多くの方々にハタオリの魅力を感じていただく他、今回の経験を活かし、来年以降も織物と観光のまち富士吉田を全国に発信するため、積極的に開催していきたい」と話してくれた。